

同窓会だより

信州大学医学部保健学科同窓会事務局
School of Health Sciences, Shinshu University
第14号 2016年10月



—目次—

川上由行先生 同窓会会長の挨拶	2
濱田州博先生 学長のご挨拶	3
金井誠先生 同窓会名誉会長のご挨拶	4
新入教員のご挨拶	5
夏期海外研修報告	7
平成27年度活動報告	10
総会記録	13
平成27年度事業報告	14
平成28年度事業計画	14
同窓会役員	15
信州大学医学部保健学科同窓会会則	15
編集後記	16

2016
第14号

初代保健学科長の宮坂敏夫先生作詞「叡智みなぎる」が信州大学入学式で歌われています！！

信州大学医学部保健学科同窓会会長 川上 由行
(信州大学名誉教授／医学部特任教授(研究))

2016年4月4日(月)、信州大学・信州大学大学院入学式が挙行され、保健学科14期生、大学院博士前期課程10期生、そして博士後期課程8期生を迎えて新年度が始動しました。そして、この入学式では、昨年から、旧制松本高等学校の思誠寮寮歌「春寂寥」と信州大学学生歌「叡智みなぎる」が新入学生を含めて全員合唱されています。

「叡智みなぎる」の作詞者は信州大学名誉教授で初代保健学科長の宮坂敏夫先生です。当時、文理学部学生だった宮坂先生が、昭和35年に作詞されたものです。信州大学には、松高関連の寮歌は60曲程あるのですが、信州大学学生歌はたった2曲しかありません。その内の1曲が、この「叡智みなぎる」なのです。

そんな中、松本高等学校開学100周年、信州大学創立70周年が、2年後に迫っています。信州大学70周年と言うことは、医学部も70周年なのです。これ等をまとめて2年後の節目の年に、信州大学全体の括りでお祝いしよう、という話が出ています。そして、この際に、新しい信州大学学生歌を募集して公表する方向での検討が行われています。

学生歌、寮歌と言えば、昨年から信州大学同窓会連合会が主催者となって「松高・信大寮歌祭」が、あがたの森公園で5月21日(土)に開催されました。当時の小宮山学長の発案が契機となって、信州大学が法人化された平成16年に信州大学同窓会連合会が誕生してから12年目です。つい先日(7月2日)、この信州大学同窓会連合会役員会、そして引き続き一昨年に発足した信州大学校友会の理事会が開催され出席しました。信州大学に関わる事案についてそれぞれ討議され、その中で上記の100周年、70周年記念行事についての話題が出ました。なお、何周年と言えば、保健学科同窓会関係でも臨嶺会は、医学部附属衛生検査技師学校が1966年に誕生し、附属臨床検査技師学校、医療技術短期大学部衛生技術科、そして衛生技術学科を経て大学院博士後期課程を要する医学部保健学科検査技術科学専攻の今日まで、今年でちょうど節目の年を迎え、全国各地から卒業生の参集を得て、9月10日(土)に50周年記念臨嶺会総会を催しました。50、70、100周年と言う長年月を経てジックリと歩んできた先達へ

の敬意を表しながら、新たな進展への誓いを確認する集いを大切に考えたいと思います。

志を抱いて今春、保健学科に入学された新入学生の諸君には、何周年などと言う話題は自分たちには

関係ない、遠い先の話に聞こえるかも知れませんね。そんな新入生諸君には、一日も早く新しい生活環境に慣れ、勉学に励み、其々の目標に向かって進んで行ってください。大学生時代は、長い人生の中でもかけがえのない大切な時期です。充実した楽しい大学生活を過ごされることを期待しています。また、大学院に入学された諸君には、自らの積極的な取り組みこそが、真理の探究を可能にし、そこに新しい知の創造の喜びが生まれ、それが社会貢献に繋がるということを体感して下さい。そして、教員には、そんな学生たちを全力で支えて行っていただきたくお願い申し上げます。保健学科同窓会も、母校保健学科が更に輝きを増していくように、出来る限りの応援を継続していきます。



信州大学医学部保健学科同窓会会報 学長のご挨拶

信州大学 学長 濱田 州博

昨年（平成27年）10月1日付で信州大学長に就任しました濱田州博（はまだくにひろ）でございます。日頃より保健学科同窓会の皆様には、一方ならぬご支援、ご協力を賜りまして誠にありがとうございます。まずは厚くお礼を申し上げます。

簡単に自己紹介をさせていただきます。1959年（昭和34年）兵庫県神戸市に生まれました。兵庫県立兵庫高等学校を卒業し、1年間浪人生活を送った後、東京工業大学に入学しました。博士課程まで9年間を東京で過ごした後、つくば市（当時は桜村）の通商産業省（現在の経済産業省）工業技術院繊維高分子材料研究所に1年2ヶ月勤務し、1988年6月より上田市にある信州大学繊維学部で大学教員生活を始めました。長野県在住が28年以上となり（1年間アメリカに留学しておりましたが）、人生では長野県で最も長く生活しております。昨年10月からは松本で平日は暮らしており、若干生活環境は変わりましたが、気候的には上田市とそれ程違いはないと思っております。専門は、繊維染色化学で、化学がベースです。繊維を構成する高分子に染料という低分子が結合する現象を扱っておりますので、生体高分子に低分子の薬剤が結合する現象と似ております。そのため、以前米国ユタ大学にある麻酔の研究室で講演をさせていただいたこともあります。また、医療材料には繊維材料が多数使用されておりますので、その点でも保健学科の研究分野と関係している点はあるかと思えます。欧米の大学にある繊維系学部・学科では、メディカル・テキスタイルを冠するコースを設けているところもあり、今後メディカルとテキスタイルあるいはメディカルとアパレルとは密接に関連していくと考えられています（米国メディカル・テキスタイル及びアパレル市場；2012年10月；日本貿易振興機構（ジェトロ）報告）。

さて、信州大学における教育組織の改編について報告させていただきます。平成25年度に人文学部が、平成27年度には、理学部と農学部が改組しました。平成28年度には、教育学部、経法学部（経済学部から経法学部に改称）、工学部、繊維学部が改組しました。また、大学院修士課程でも平成28年度から教育学研究科に高度教職実践専攻（教職大学院）を設置し、理工学系研究科と農学

研究科の2研究科18専攻を、理学、工学、繊維学、農学及び生命医工学の5専攻により構成される総合理工学研究科へ統合再編しました。これら専攻の内、生命医工学専攻には保健学科の先生にも



加わっていただいております。現在、博士後期課程全体（医学系研究科及び総合工学系研究科）の改編に向けて検討が進んでいるところです。

ところで、平成28年度から始まった第3期中期目標期間では、国立大学法人運営費交付金において3つの重点支援枠が設けられました。信州大学が選択した重点支援①では、主として、地域に貢献する取組とともに、専門分野の特性に配慮しつつ、強み・特色のある分野で世界・全国的な教育・研究を推進する取組を中核とする国立大学を支援となっております。信州大学では、日経グローバル誌による「全国大学の地域貢献度ランキング」で、4年連続1位となった地域的な取組を重視しながらも、特色ある教育研究分野で世界ナンバーワンを目指していきたいと考えております。

大学は、在学生や教職員だけではなく、様々な方々とともに歩んでおります。同窓会の皆様とともに歩んでいける大学になることを目指したいと思っておりますので、これまでと同様のご支援、ご協力をお願い申し上げます。



同窓会の皆様へ

信州大学医学部保健学科同総会名誉会長 **金井 誠**
(信州大学医学部 保健学科長／看護学専攻 小児・母性看護学領域 教授)

保健学科同窓会の皆様には、平素より在校生の教育および学科運営に多大なご理解とご支援をいただいております。この場をお借りして心から御礼申し上げます。

北校舎・中校舎の耐震改修と地域保健推進センターの設置事業は、平成26年度末に終了することができました。これも同窓会をはじめとする、多くの団体と個人の皆様方から、多大なるご支援を賜ることができたおかげであり、重ねて感謝申し上げます。学生達は、新校舎での講義、実習・演習、実験、研究、学生生活を満喫しており、教育環境の充実を大変喜んでおります。

しかし、南校舎は耐震改修が不要となった年に建築されたため、今回の改修工事の対象外でした。外観も内部も取り残された感があり、学生・教員からも南校舎改修要望の声を聞いておりました。そこで、保健学科の近年における教育・研究活動、地域貢献などとともに、南校舎改修の必要性を大学本部に強くアピールした結果、平成27年度に外壁改修工事予算を大学の戦略的経費として獲得することに成功し、平成28年度から29年度にかけては南校舎内の教育環境整備を部局重点事業の一つに位置付け、本事業の重要性を大学本部にさらにアピールし、事業予算の一部の獲得にも成功いたしました。これにより南校舎も新しい環境での教育・研究環境を整備する目途が立ちましたので、ご来校いただいた際には、是非とも新しい校舎や新設した中庭などをご覧いただきたく存じます。

また、地域保健推進センターの地域貢献活動として、平成26年秋から、市民が参加できる健康講座を春と秋に開講しております。毎回非常に好評で、継続した開講を希望する声を数多く頂戴しております。本年度も5月から7月にかけて「みんなで知ろう！認知症」をテーマに4回開講いたしました。秋期も10月から12月にかけて「健康長寿のための運動と栄養」をテーマに4回開講予定しておりますので、皆様方も是非センターにお越しただければ幸いです。

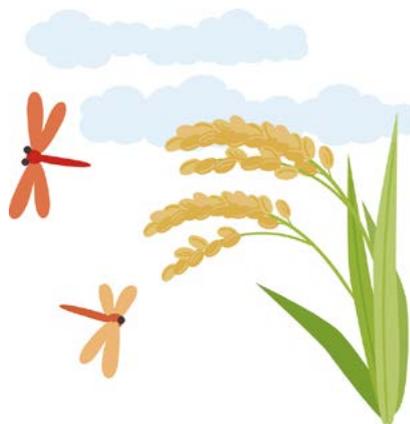
さらに、保健学科と附属病院看護部とが主体となって、平成26年度から取り組んでいる文科省・課題解決型高度医療人材養成プログラム『実践力ある在宅療養支援リーダー育成事業』も順調に進んでおり、昨年6月に教育プ

ログラムがスタートした第1期生が本年12月に修了予定となっております。来年6月には2期生のプログラムがスタートし、平成30年度まで持続する事業となっております。在宅療養



で質の高いケアを提供する看護師の育成を目指す本事業は、国や多くの関連施設から大きな期待を受けています。

以上のように、保健学科では毎年新たな取り組みを積極的に展開しており、さらなる発展に尽力していく所存です。同窓会の皆様方には、一層のご支援とご指導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



新入教員のご挨拶

自己紹介

伊澤 淳

(看護学専攻 成人・老年看護学領域)

この度、看護学専攻成人・老年看護学領域の担当として着任しました。昨年より選考委員会の先生方ならびに教官や職員の皆様には大変お世話になっております。保健学科には、私が第一内科および循環器内科在職中より、医学研究(動物実験)、附属病院の各種委員会、学外勤務先、サークル活動等においてご指導くださった先生方が多く在籍されており、重ねて御礼申し上げます。着任には不安もありましたが大変心強いご支援を賜りました。



私の専門は循環器内科(特に心不全、高血圧、動脈硬化の一次予防等)ですが、担当する講義は内科学の全てに渡ります。私にとっては大いに復習が必要ですが、専門領域に偏りがちだった知識をあらためて整理し、自分の診療を向上させるチャンスと考えております。

着任後1週間が経過し、多くの教職員の皆様の熱意と努力により保健学科が活動・運営されていることを実感しています。私もその一員として、伝統ある保健学科と信州大学の発展のため、また前任の本郷実教授が展開された地域における生活習慣病の予防、健康寿命の延伸を目指した活動をさらに発展させるため、専心努力して参りますので、今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

自己紹介

渡邊 千春

(看護学専攻 成人・老年看護学領域)

同窓会の皆様、はじめまして。4月より成人老年看護学講座の講師として着任しました渡邊千春と申します。私は、隣県である新潟県内の大学に勤務しておりました。初めての信州での生活となりますが、山々の景色や昔ながらの素敵な街並みに囲まれる中で生活できることに感謝しております。私の専門は、がん看護や緩和ケアであり、特に終末期にあるがん患者や家族を対象にした看護に興味を持っています。がん検診や診断の精度向上による罹患率の上昇や治療の進歩によって、がん患者は年々増加し、がんサバイバー(がん体験者)という言葉も浸透してきました。また、緩和ケアは、治療の手段が何もなくなった時に受けるものと思われていましたが、生命予後やQOLの観点から、診断された時期からの導入が重要であることも分かってきました。このような背景の中で、看護師は患者・家族の状況や段階を見極めながら、多職種と連携・アプローチしていくことが



求められます。私自身まだまだ勉強不足の段階にありますが、こういった意味でも保健学科という場で働けることや同窓生の皆様と関わることは貴重な機会だと思っております。これからも、何卒よろしく願い致します。

自己紹介

木下 愛未

(看護学専攻 広域看護学領域)

今年度より、看護学専攻広域看護学講座(精神看護学)に着任致しました木下愛未と申します。



これまでは、信州大学を卒業後、国立精神・神経医療研究センター病院の医療観察法病棟で精神科看護師として勤務しておりました。このたびは、看護師としての礎を築いてくださった母校で働けることとなり大変嬉しく思います。

医療観察法は、心神喪失又は心神耗弱の状態では他害行為を行った方が、治療だけではなくその振り返りを行うことで、再他害行為の防止とともに社会復帰を目的とした入院を行うところでした。精神疾患と他害行為を背負った対象者、家族、被害にあわれた方、そしてスタッフなどすべての人の感情や考えを考慮しながら日々関わっていくことは、人の複雑さや奥深さから難しくもありました。そのような中でそれぞれの人の思いを大切に作る姿勢が非常に重要であると感ずることができました。

経験が浅く未熟な部分も多くありますが、諸先生方のご指導を賜りながら、研究や教育に自己研鑽していく所存です。精神科の臨床経験で感じた事を基に精神科看護を伝えていければと考えております。どうぞよろしく願い致します。

自己紹介

平 千明

(検査技術学専攻 病因・病態検査学領域)

本年度4月より検査技術科学専攻病因・病態検査学領域の助教に着任致しました、平 千明と申します。本学を卒業後、信州大学医学部附属病院臨床検査部で8年間勤務し、この度教員として母校に帰って参りました。



信州大学医学部附属病院臨床検査部では遺伝子・染色体検査と生理機能検査に従事しながら、時間外勤務として検体検査と輸血検査も担当しました。さらに、分子生物学的手法を用いた研究を行い、社会人大学院生として修士(保健学)と博士(医学)を取得しました。日常業務を行いながらの学位取得は非常に険しい道程でしたが、教員という新たな分野への扉を開くことができました。検査技術科

学専攻では複数の科目を担当することになりますが、臨床検査技師としてのこれまでの経験を学生教育や進路指導に活かせるよう邁進していく所存です。

松本での生活も10年以上が過ぎました。社会人として研究者としての土台を固めることができたこの地で、さらに飛躍できるよう自己研鑽に励んで参ります。学生時代にお世話になった先生方をはじめ、皆様方のご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

自己紹介

杉山 暢宏

(作業療法学専攻 実践作業療法学領域)

はじめまして、杉山暢宏と申します。この4月から埴原秋児前教授(長野県立こころの医療センター駒ヶ根 精神科研修・研究センター センター長として転出)の後任として医学部保健学科作業療法学専攻実践作業療法学でお世話になっております。



私は山梨医科大学を卒業後、同附属病院精神科における2年間の臨床研修を経て、大学院を終了しました。信州大学精神科天野前教授の教室に入局を許可され、医局や附属病院のご支援を頂き、スウェーデン王国カロリンスカ研究所やテキサスメディカルセンターでの研究留学を認めて頂きました。学術的な成果だけでなく、高福祉高負担の北欧から低福祉低負担の米国へ家族そろって引越し、生活するなかで、日本という国のあり方について深く考えさせられました。

精神科医療や精神保健は優秀な保健師、看護師はもちろん、助産師(周産期のメンタルヘルス)、作業療法士、理学療法士によって支えられています。臨床検査技師もその扱う検体の先にある一人の人間への尊敬と慈愛が当然ながら必要です。私が国内外の恩師に学んだ学問への姿勢、精神科の知識と技術、そして弱者への思いやりと心配りを、学生さんに正しく伝え、ともに学び、さらに研鑽して行く所存です。

諸先輩方におかれましてはご指導ご鞭撻の程、よろしくお願ひ申し上げます。

自己紹介

佐賀里 昭

(作業療法学専攻 基礎作業療法学領域)

今年度の4月より、作業療法学専攻へ赴任いたしました佐賀里昭と申します。教員としての経験のない私を温かく迎えてくださり、保健学科の関係者の皆様には心より感謝しております。早く業務に慣れ、お役にたてるように努力していきたいと考えております。これまで、私は、身体障害領域の急性期、回復期、生活期の施設で作業療法士として勤務してきました。また、地域での活動としては、地域在住の高



齢者を対象とした一次、二次予防の地域支援事業へ参加してきました。こちらへ赴任する直前までは、勤務していた施設が、がん診療連携拠点病院であったこともあり、がんリハビリテーションに携わっておりました。がんリハビリテーションは、診療報酬算定が可能となり数年しか経過しておりませんが、社会的な需要もあり、他職種と連携しながら生活を支援していく作業療法士が活躍できる分野だと感じております。大学院では、主に近赤外分光法などの生体計測機器を用いた基礎研究の手法を学びました。作業療法で用いる作業は、ひとの生活を支えるための有用な手段として活用されていますが、有効性を示すことが難しいともいわれています。今後は、生体計測等の手法を用いながら、作業の有効性を示し、得られた成果を実際の作業療法へ活かしていけるような活動を進めていきたいと考えております。今年度より、信州大学において教育及び研究に携わることができると大きな喜びを感じております。今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

自己紹介

佐藤 正彬

(作業療法学専攻 基礎作業療法学領域)

本年度より作業療法学専攻助手として着任いたしました佐藤正彬と申します。私は信州大学医学部保健学科の8期生としてこの学び舎を卒業し、卒後は上伊那の回復期リハビリテーション病院にて勤務、昨年度より信州大学医学部附属病院リハビリテーション部での勤務を経て現在に至ります。保健学科に在学していた頃より、臨床だけでなく、研究や教育等の学術分野への強い興味を抱いておりました。今回こうして母校の教員として教育・研究分野に携わることができると、大いなる喜びを感じると共に、私にこうしたチャンスを与えてくださった諸先生方に心より感謝申し上げます。



私自身は臨床、研究、教育いずれも経験は未熟ではありますが、私自身が選んだ「作業療法」という分野に対して、他には負けない情熱と高い志を持って日々仕事に取り組んでおります。私自身が出会えて良かったと感じる魅力的な分野であるからこそ、今後は研究・教育・臨床の場で益々自己研鑽を積み、後輩達に「作業療法」の魅力を伝えていける存在になりたいと思っております。そして、将来的には地域社会、医療福祉分野、この保健学科の発展に寄与する人材になれるようこれから日々精進して参ります。皆様、どうぞよろしくお願ひいたします。

夏期海外研修報告

オーストラリア

カーティン大学

検査技術科学専攻3年 小林 夢

海外派遣・home stayは2回目でしたが今回は医療英語が必要だったので不安でした。しかし、多くのことを学ぶことができ貴重な経験ができました。短い期間であるからこそ英語のlistening, speaking力をつけて参加することで、2週間を有意義に過ごすことができると感じました。

1週目はオーストラリアの文化・言葉、健康に関する英語の授業、Curtin大学で日本語を学ぶ学生との交流、遠足、施設見学を行いました。休日は、豊かな自然を満喫し現地の休日の過ごし方も垣間見ることができました。2週目は専門分野の授業（微生物・寄生虫学、病理学、血液学）や実習（病理学：標本の染色）に参加し施設・病院見学を行いました。微生物・寄生虫学の講義は初めて参加した現地の学生向けの講義ということもあり先生の英語のスピードの速さに驚きましたが、講義内容は今までに学んだ内容だったので理解できました。講義は、ただレジメを読むだけでなく生徒がよく意見・質問しており発言の機会が多いと感じました。

病理学の講義では、症例を挙げてある疾患の症状・診断方法など話し合い、講義後半には標本の染色（HE染色・PAS染色・Toluidine Blue染色）の実習を行いました。HE染色の脱パラから透徹までの系列が整理されて常に用意されていたことや水洗の際、標本の表側に直接水をかけていたこと、透徹の時間が短かったことなど驚くことが多かったです。染色後すぐスクリーンに標本を映し、組織や細胞・疾患について話し合っており良い授業の流れだと感じました。血液学の講義では骨髄について詳しく学び、オリンピック期間であったということもありスポーツ血液学という講義も受けました。講義・実習を受け、日本の学生よりも目的意識が高くまたやる気も強いと感じました。

ホームステイでは、現地の生活スタイルを実際に経験でき、常に英語を話せ日常英語を学ぶことができました。積極的にコミュニケーションがとれたことで第二のお母さん・お父さんという大切な存在ができ、英語力の向上にもつながったと感じました。

この2週間で、自分の意見を相手に伝えること、自分の英語に自信を持てたことが自分の中で一番変化したことだと思います。変化できたことを大切にしつつ、また新しいところへ挑戦し新しい自分に出会いたいと思いました。今回の病院・施設見学ではPTや看護に関する所

へも多く行き専門分野だけでなく広い視野を持った医療人になりたいと思いました。このプログラムを通して、将来海外の医療に関わる仕事をしたいという気持ちが強くなりました。この研修で得たことを活かし残りの学生生活を送りたいと思います。



オーストラリア

カーティン大学

看護学専攻2年 植村 真衣

カーティン大学の派遣プログラムの内容は、英会話のクラスから始まり現地の日本語倶楽部のメンバーとの交流や大学内での専攻ごとの施設見学、様々なオーストラリアの医療施設の見学に加え様々な観光名所への遠足といった異文化体験の場も設けられたバラエティーに富んだ内容であった。生徒もいろいろな場所へ行くことによってその場その場に応じた英会話を習得することができ、生活様式やオーストラリアの文化、特色を学ぶことができた。

学内での授業見学・参加は、日本とはまた違った雰囲気・授業内容・施設設備を知ることができ日本との違いを比較することができた。カーティン大学の学生たちは授業内での意見の交換が盛んで、教員に尋ねられたことはもちろん他の学生の考えにも自分の意見や疑問を投げかけていて授業を活気のあるものにしていったのが印象的であった。教員も生徒一人一人の意見に耳を傾けており、生徒の発言に対して豊富な知識で添削をほどこし疑問にはわかりやすく答えるようにしていたので、こうして積極性のある授業は生まれていくのかと感心した。現地での医療施設見学ではオーストラリアの医療制度を知ることができ、公的医療機関は診察料が無料であるとかリハビリ設備が整っていることなどを確認できてよかったと思う。

研修内であった様々な観光名所への訪問もいい経験ができたと思う。Swan ValleyではWildlife parkでオーストラリアで有名なコアラやカンガルー、ウォンバットやエミューなど日本ではあまり見たり触ったりできない動



物たちと触れ合ったりでき、とても楽しい時間を過ごすことができた。土曜日には生徒全員でロットネスト島に行き、海に囲まれた島をサイクリングするといった日本ではなかなか経験できないレジャーを楽しむことができた。

今回の海外研修で海外留学の多くの魅力に気が付けたと思う。カーティン大学の演習設備は日本とは比べ物にならないと思った。実際に病室を模した演習室にマジックミラーでの観察・フィードバックが可能な設備、瞳孔の収縮やチアノーゼまで表現できるシミュレーションモデル、生徒の目につきやすい医療機器や薬品サンプル。シミュレーションモデルに至っては妊婦や新生児のモデルも存在し、よりリアルな臨床現場を表現できるようになっていた。これだけの設備が私立ではなく公立機関に存在するのは正直羨ましい。

他にも多くの人種、性別、年齢が一つの場所に集まって共に学んでいるという状況が新鮮で面白く、研修中も多くの現地の人たちと話すことができて楽しかった。今後自分がどんな道に進んでいくか明確にはわからないが、海外留学も新しく視野に入ってきたことは私の視野を広くし選択肢を増やすことができたのではないかと思う。

シンガポール

シンガポール海外研修

看護学専攻3年 漆崎 朱花

今回のシンガポール医療研修を通して、日本とシンガポールにおける医療や教育システムの違いを学ぶことができた。シンガポールと日本における大きな違いは、シンガポールは英国方式の病院運営システムを持っており、一般総合医と専門医の二種類の医師が存在することである。専門医が所属する大型病院は政府が管轄する公立病院と私立病院の二種類に分かれており、今回はその大型病院の中でも最大の規模であるSGHを見学させていただいた。

SGHは、日本における大型病院の規模と比較して圧倒的に大きく、霊安室を含めた9棟もの病棟をもつだけで

はなく、敷地内にはMinistry of Healthと呼ばれる日本でいう厚労省のような政府機関が存在する。SGHは規模が大きだけでなく、最新の医療技術が取り入れられており、常に最先端の医療処置が行われていた。最先端の医療が行われている中で、SGHは医療の進歩に伴う病院スタッフの技術向上を目的とし、シミュレーション機器を用いた教育が行えるブースを併設していた。臨機応変な対応が求められる臨床現場において、常日頃から練習を行える場があるのは、技術向上が行えるだけではなく医療ミスの軽減にもつながると考えられる。日本の大型病院にもこのようなブースが併設されていれば、医師や看護師の意識向上や医療技術の向上につながるのではないかと感じた。

シンガポールは多くの人種の方が在住しており、多国籍国家であり、人種と言葉のサラダボールと呼ばれている。共用語は英語ではあるが、外来や救急で搬送されてくる患者は英語を母国語としていない方も多く、医療スタッフはそれぞれの言語に対応する必要がある。そのため、英語以外にも公用語を習得している医療スタッフが数多く、その言語の種類は中国語、マンダリン、マレー語、タミール語などに及ぶ。医療技術のみではなく、多国籍者とのコミュニケーション能力も求められる環境であり、日本との大きな違いを感じた。患者のベッドサイドには患者の情報が記載されたパネルや、壁には患者が話す言語に関する情報が記載されたボードが掲示してあった。

シンガポールの医療教育システムは日本とは大きく異なり、看護師や理学療法士、作業療法士などの保健学科の専門職者を育成する大学は存在しない。職業訓練などの専門学校で2年間学び、その後、臨床現場に出ていく。教育システムも異なり、国家試験が存在しないため、卒業後はすぐに働き始めることができるのが特徴である。我々は臨床の技術はもちろんのこと、国家試験に受かるための基礎的な知識を目指している。臨床現場に出るうえで国家試験は必要不可欠な過程であると思っていた私たちは、常識が覆された思いだった。

今回の研修を通して、他国の医療に触れたが医療における「患者のために想った医療」は共通していた。今



後、本格的に実習を行っていくがこれからさらにシンガポールと日本における医療の相違点を感じられたらと思う。

シンガポール

シンガポール海外研修

検査技術科学専攻2年 長尾 佳林

今研修では、Singapore General Hospital (SGH)、Singapore Institute of Technology (SIT)、Nanyang Polytechnic (NYP)、Bright Vision Hospital (BVH) の4つの病院、専門学校、大学に訪問させてもらった。まず、SGHに関しての第一印象は本当に大きい病院であるということだ。また、歴史の長いSGHであるが、それを感じさせない外見も中身も整った最先端の設備があり、どこを見ても綺麗で清潔感があった。行き交う、医療者、患者、面会者は見るからに様々な国籍の方ばかりでそれもまた日本とは違い、新鮮味を感じた。中身としては、多くの診療科目を持つので患者はそれぞれ専門的な検査、治療をSGHのキャンパス内で行うことができる。

SGHでの研修は二日間で、このように1日目はSGHについての全体のことを学んで2日目は各専攻に分かれて臨床の現場の見学をさせてもらった。自身は検査技術科学を専攻しているので検査部の見学で中でも特に免疫検査室、ウイルス検査室、微生物検査室、輸血検査室の4つを見学することができた。それぞれの検査室で各部署の検査技師の方が丁寧に説明してくださり、質問にも対応してくださって充実した見学となった。

SITはシンガポールにある5つの大学のうちで1番新しい大学で43の教育課程のあるうち5つの専門課程がありそのうちの保健学科にあたるのがHealth And Social Sciencesで更に、そのうち看護、理学療法、作業療法の専攻がある。SITは大学なので日本と同じように四年間で学位を習得することができるが、NYPのような専門学校では三年の課程を修了した後、一年間臨床で働くことにより学位を取得することができる。主にSITやNYPといった学校の特色、どのように学位を取得するのかなどを学び日本との比較、更にはSITとNYPの違いもよく分かり日本より複雑なシステムではあるが、それぞれの資



格を取るための道が様々に敷かれているのが分かった。

BVHはコミュニティホスピタルで多くの患者が行き交っていて病院内でリハビリを行うために階段の上り下りのリハビリのために踊り場に休憩用の椅子が設置されており、更にはリアルなシンガポールの家がセットされていて実践的なものばかりであった。このように普段の旅行では決していけないような海外の病院や学校へ見学させてもらえる機会をいただけたのは、今年で3年目になるシンガポール研修であるが、毎年この研修に携わっていただいている先生方、先輩方、さらには金銭面では家族の支えであり、この場を借りてお礼を申し上げたいと思う。

ネパール

ネパール海外研修

理学療法専攻3年 小坂 遥子

一週間、ネパールでの研修に参加させていただきました。施設見学と地域ボランティアのお手伝いの二つをさせていただきます、まずは施設見学についてです。

まずヘルスポストを見学しました。政府の援助があるため安く診てもらえますが簡単な診療しかできません。家族の健康相談所のような場所で妊娠の時期の相談から高齢者の健康まで一通り担っています。次はGrande International Hospitalという私立病院です。今回のプログラムに企画から協力して下さったAmit先生に案内していただきました。ここでは医師が選べ、裕福な人はシャワー、トイレ、などがついた広い個室に入院することができます。ただし病院内でも貧富の差があり、28床で1部屋というところもありました。最後はライ病患者のための病院です。ここでは自立した、その人らしい生活に戻るためのリハビリプログラムを組んでおり、指を切断した手で編み物をしている患者さんがいました。

次にボランティアについてです。幼稚園に行き、紙芝居で手洗いと歯磨きの重要性を教え実践してみようというもので、紙芝居を知らないマザーボランティアの方々のためにまず私たち学生がやってみせました。実際に幼稚園では、マザーボランティアの方々は紙芝居を1枚1枚丁寧に説明していて、園児たちも歯磨きと手洗いを慣れない手つきで一生懸命やってくれました。

これらの活動を通して、ネパールの医療事情や地域医療をする上で大切なことを学ぶことができました。そして同時に、新しいネパールの一面も知ることができました。まずは貧富の差です。貧富の差は受けられる医療の質はもちろん、教育の差にも直結します。実際、Amit先生はネパール語、英語、日本語が分かりませんが、一方でマザーボランティアの方は字が読めません。しかし、だからこそと言ったら失礼かもしれませんが、ネパール

の方々のすてきな振る舞いが際立って見えました。どの施設も、突然の訪問にも関わらず快く受け入れて下さり、椅子のない幼稚園では私の親もおかしくないような年齢の方が座布団を譲って下さいました。短い滞在でしたがネパールから学べることはたくさんあり、多くのことを考えさせられました。

日本にない医療の体制を見ることができ、今まで当たり前だった事に目を向けるきっかけもでき、素晴らしい経験をさせていただきました。奥野先生、Amit先生、サリタさんをはじめとしてサポートしてくださった方々、本当にありがとうございました。



平成27年度 活動報告

平成27年度 保健学科同窓会からの支援について報告

理学療法学専攻

保健学科同窓会からの実験実習関連の支援により、本専攻では歩行機能の解析装置を購入いたしました。下肢各関節に加速度センサーを装着し、無線を利用して測定します。場所を必要とせず、短時間の装着により測定できる機器です。学部の実習や大学院生の研究に利用しております。



◀▼歩行機能解析装置



1) 実験動物人工呼吸器



2) 車いす



作業療法学専攻

保健学科同窓会より、作業療法学専攻の実験・授業関連機器の購入にご支援を頂きまして、誠にありがとうございました。購入いたしました機器にて、学生の教育の充実を図りたいと考えております。以下に、購入機器をご紹介します。

- 1) **実験動物人工呼吸器**：実験用マウスの呼吸を維持して循環動態を反映した解析に利用できます。遺伝子改変を含むモデルマウスを用いて病態を解明する目的で、卒業論文や大学院研究に大いに役立たせて頂きます。
- 2) **車いす**：跳ね上げ式アームサポート、脚部スイングアウト機能の付いたものをご購入いたしました。日常生活動作や生活機器関連の授業で使用しています。
- 3) **上腕義手・前腕義手**：従来あった義手が古くなり、一部損傷もみられたため、新しいものをご購入いたしました。義肢装具学の授業で使用しています。
- 4) **上肢装具**：上肢装具は今まであまり種類がなかったため、典型的で国家試験にも出題されるような各種上肢装具を充実させました。学生も手に取って確認できるので理解度が高まっています。こちらも義肢装具学の授業で使用しています。

3) 上腕義手・前腕義手



4) 上肢装具 (一部)



卒業祝賀会・優秀学生表彰

平成28年3月21日(月)

平成28年3月21日(月)に旭会館一階にて卒業祝賀会を開催しました。金井学科長と各専攻の成績優秀学生のみなさんです(写真右から 作業療法学専攻・清水典子さん 看護学専攻・藁科亜季さん 検査技術科学専攻・森田温さん 理学療法学専攻・小倉舞鈴さん)。



大学院修了祝賀会

平成28年3月21日(月)

平成28年3月21日(月)に大学院修了祝賀会を開催しました。第5期の博士後期課程修了者は4名で、学位論文は以下の通りでした。

大江 厚 さん

"Characteristics of Trunk Control During Crook-lying Unilateral Leg Raising in Different Types of Chronic Low Back Pain Patients

(慢性腰痛患者のタイプの違いにおける片脚下肢挙上時の体幹制御様式の特徴) "

田中 佐千恵 さん

"Effects of Early-Stage Group Psychoeducation Programme for Patients with Depression

(うつ病患者に対する早期集団心理教育プログラムの効果) "

上條 明生 さん

"Immunohistochemical study of the membrane skeletal protein, membrane protein palmitoylated 6 (MPP6), in the mouse small intestine

(マウス小腸における膜骨格蛋白MPP6の免疫組織化学的検討) "

向井 早紀 さん

"Differences in the function and secretion of congenital aberrant fibrinogenemia between heterozygous γ D320G (OkayamaII) and γ ΔN319-ΔD320 (OtsuI)

(先天性異常フィブリノゲン血症ヘテロ接合体 γ D320G (Okayama II) と γ ΔN319-ΔD320 (OtsuI) の機能および分泌の違い) "

特別講演

平成28年6月26日(日)

平成28年6月26日(日)、「なくした人とつながる生き方～死別の悲しみから希望を紡ぐ～」をテーマに、尾角光美氏(一般社団法人 リヴオン代表)の公開講演会を開催致しました。リヴオンは母の日プロジェクト、自死遺児支援などのグリーフケア活動を行っています。教員・学生254名、一般24名の方々が参加いただき、グリーフケアを考える貴重な機会となりました。



保健学科4専攻「卒業生を交えての懇談会」開催

平成27年10月14日(水)

平成27年10月14日(水)午後、4専攻別に、「卒業生を交えての懇談会」を行いました。専門職として社会経験を数年積んだ保健学科卒業生を3名ずつ招き、在学生に向けたメッセージを伝えてもらいました。学生時代に学んだ中で重要な科目は何か、学生生活をどのように送ってきたか、在学生の皆さんに今後どのような学生時代を過ごしてもらいたいかなどについて講演してもらいました。比較的年齢に近い卒業生のプレゼンテーションに刺激を受けたと思います。

卒業生の皆さん、ご協力いただき、ありがとうございました。

【看護学専攻】 菱田純大さん(看護師)(H19年度卒業:信州大学医学部附属病院) / 山川祐亮さん(看護師)(H22年度卒業:日本医科大学附属病院) / 黒田彩加さん(保健師)(H23年度卒業:松本市中央保健センター) / 中林亜弓さん(助産師)(H20年度卒業:篠ノ井病院)

【検査技術学専攻】 小堺智文さん(H20年度卒業:松本市立病院) / 渡邊直子さん(H21年度卒業:諏訪赤十字病院) / 長谷山貴博さん(H22年度卒業:信州大学医学部附属病院)

【理学療法学専攻】 竜崎大地さん(H20年度卒業:北アルプス医療センター あづみ病院) / 中村慶輔さん(H21年度卒業:松本市立病院) / 丸山由貴さん(H22年度卒業:伊那中央病院)

【作業療法学専攻】 長谷川文さん(H18年度卒業:総合上飯田第一病院) / 河埜康二郎さん(H20年度卒業:千曲荘病院) / 新井雄麻さん(H22年度卒業:飯田市立病院)

卒業生の声

山川 祐亮／看護学専攻 5 期生

信州大学保健学科を卒業し、現在東京の病院へ就職し、日々看護師として働いております。看護師は医療職の中でも患者に接することが多い職業の一つであると思います。現在、私が勤める高度救命救急センターでは超急性期の患者がほとんどであり、短時間で状態が変化するため、患者と接することの多い私たちは小さな変化にも気づける観察力が求められます。医療は日々勉強と言われますが、働きながら多くのことを学び、実践している毎日です。緊迫する日々も少なくなく、肉体的・精神的に楽とは言えないことも多くあります。しかし、その中で東京に住みながらも信州大学と一緒に学生生活を送り、看護実習を乗り越えた友人と集まることは卒業以来続けていることの一つです。お酒を交えながら各々の近況や各病院・領域での話を聞くことは自分自身の仕事に対する刺激となり、一方日々の業務の中でのリラックスできる時間となっています。日本の中心に位置する長野県松本市・信州大学で出会った友人と現在でも交流があることは私にとっては大きな財産です。

卒業して5年経ちますが、信州大学で学んだことは臨床における看護の基礎となっていると感じることは多々あり、友人と大学4年間を過ごせたことは、とても特別な時間であったと思います。在校生には、多くのことを学ぶことができ、たくさんの人と多くの時間を過ごすことができる大学生活を存分に楽しんでもらえたらと思います。



▲ 看護懇談会
▼ PT懇談会



長谷山 貴博／検査技術科学専攻 4 期生



検査技術科学専攻、2009年度卒業生の長谷山です。病理の技師として1年半千葉県某の病院に勤めた後、信州大学病院臨床試験センター（現、臨床研究支援センター）へ入職し、予てから興味があった臨床研究コーディネーター（CRC、治験コーディネーター）となりました。学生時代の臨地実習にて、当時のCRCさんが、「職域が広く毎日が勉強。それが面白くもあり辛くもある。」とおっしゃっていました。正にその言葉通りの毎日を過ごし、気がつけば6年目。治験に携わって世に出た医薬品は10を越えました。ふと臨床で見かけると、まるで我が子を見ているような何とも言えない気持ちになります。今年度からは治験事務局を兼任しており、活動の場をさらに広げていこうと思っています。

本業の傍ら、医療コミュニティ“Medical Warriors”を立ち上げました。町中でトークイベントなどを企画したり、高校生向けセミナーにお呼ばれされたりしています。個人では昨年、検査技術科学専攻の在学生に、OBとしての経験談（失敗談多めで）をお話させていただきました。先日は群馬パース大学で、CRCという進路についてお話させていただきました。

“話す”ことはとてもワクワクします。「誰と、どんな言葉と出会うか」が、その人のその後の人生を大きく左右すると考えているからです。自分に発する言葉にもその可能性があるならば、精一杯やっていきたいと思っています。必要とあれば、ぜひお声がけください。



▲ 検査懇談会

「卒業して10年たち思うこと」

中西 洋子／理学療法学専攻1期生



保健学科の1期生として入学しました。3年制から4年制になり、新しい体制、新しいカリキュラムで、先生方も熱心に指導してください、私たち学生への期待も大きかった(?)ように記憶しています。私も含め、社会人経験者が5人おり、18歳から40歳までの幅広い年齢層のクラスでした。誰かのアパートで鍋をしたり、試験の打ち上げとっては中庭でバーベキューをしたりと(今は禁止ですね)、何かとよく集まっていました。試験前には、担当を割り振って試験対策問題を作り、国試前にはクラス内を班に分け、班ごとに集まって試験勉強をするなど、自主的に助け合って勉強したのも懐かしい思い出です。

昨年の同期会では、着実にPTの経験を積んでいる人、教職についた人、PTとは別の道を進んでいる人…様々でした。今では全国に散り散りになっていますが、あの頃一緒に過ごした仲間たちが、それぞれの地で、それぞれの道を歩んでいると思うと元気をもらえます。私は現在、回復期病棟で患者さんの在宅復帰を目指してリハビリに取り組んでいます。私自身が患者さんの娘さん・お嫁さんの年代と近くなり、以前よりも身につまされる状況も多く、それゆえに悩むことも多々あります。それぞれの家庭事情、患者さん・ご家族の思いなど、難しい面もありますが、やりがいも感じます。

最後に。在校生の皆さん、これからたくさんの失敗や辛いこともあると思います。ですが、その経験が成長につながることを思います。頑張ってください。

在学中の思い出

河埜康二郎／作業療法学専攻3期生



私は2005年に保健学科3期生として作業療法学専攻に入学しました。全国各地から学生が入学し、長野県出身者は19名中4名しかいませんでした。また、後にも先にも例を見ないほど、男性の多い学年でした。

在学中一番の思い出は、たくさんの人との出会いです。作業療法学専攻だけでなく、他専攻・他学部仲間、先輩、後輩、先生方にもとても恵まれました。その他にも、アルバイト先での出会いや、カーティン工科大学短期研修では現地の大学生・ホームステイ先のファミリーとの出会いもありました。楽しいことが山ほど(ほとんど飲み会)、苦しいことも山ほど(ほとんどテスト・実習)ありましたが、今となってはすべて良い思い出です。現在もたくさんの方と交流が続いており、とてもありがたく感じています。

さて、先日久しぶりに保健学科に行ったところ、建物および内装が大きく変わっていて驚きました。冷暖房設備が整い、机や椅子も新調され、授業の出欠は学生証を機械に認証させるようです。私が在学していた頃は冷暖房設備が整っておらず、夏はどの教室でも巨大扇風機の取り合い合戦が繰り広げられていたことを覚えています。建物は大きく変わっても、自分の中の思い出は変わらず、とても懐かしく感じました。

今後も同窓会を通じて、たくさんの方と出会い、思い出話ができるとうれしいです。今後とも、よろしくお願いたします。

総会記録

平成28年度信州大学医学部保健学科同窓会総会議事録

日時：平成28年6月26日(土) 15:15～16:15

場所：旭総合研究棟 9階講義室A/B

1. 川上由行保健学科同窓会会長挨拶
2. 保健学科同窓会名誉会長(金井誠保健学科長)挨拶
3. 議長選出
信州大学医学部保健学科 樋口由美子氏が選出。
4. 平成27年度事業報告および決算報告
下里誠二幹事より平成27年度事業報告がされた。
柳澤節子幹事より平成27年度決算について報告された
5. 平成27年度記念事業特別積立金・地域保健設置積立金
柳澤節子幹事より報告された。
6. 平成27年度会計監査報告
小穴こず枝監事より会計監査報告がなされた。
以上について特に質疑がなく拍手により承認された。

7. 平成28年度会費納入状況報告書
柳澤節子幹事より会費納入状況について報告があった。
8. 平成28年度事業計画および予算(案)
下里誠二幹事より平成28年度事業計画(案)について、柳澤節子幹事より平成28年度予算書(案)について説明があった。
質疑なく上記3件について承認された。
9. その他
特になし。
10. 議長解任

平成27年度事業報告

1. 在校生の教育支援及び保健学科の運営補助

- 1) 学生図書購入
- 2) 学術国際交流推進(オーストラリアのカーティン大学のプログラムと、シンガポールのシンガポール総合病院のプログラム)
- 3) 特別講演の開催
 - ・平成27年度 保健学科同窓会特別講演
期日：2015年7月4日(土) 13:00～15:00
会場：信州大学旭総合研究棟9階講義室A/B
講師：酒井ひとみさん(ALS当事者)
川口有美子さん(ALS協会理事)
演題：ALS的ハッピーライフ
- 4) 実習指導者連絡協議会開催補助
- 5) 卒業式・学位記授与式
 - ・祝賀会補助
 - ・卒業記念品の贈呈(集合写真)
 - ・竹内松次郎賞記念楯(優秀学生表彰)
- 6) 入試広報活動補助
 - ・オープンキャンパス会補助
 - ・各特別選抜試験および一般選抜試験補助
- 7) 学生課外活動支援
 - ・新入生合宿研修補助
- 8) 学習環境整備
 - ・学部学生支援
理学療法学専攻・作業療法学専攻
歩行解析装置、実験動物人工呼吸器 その他
- 9) 卒業生を迎えての懇談会 支援

2. 保健学科同窓会分科会支援

- 1) 看護学専攻：アルプス会・桐の木会

- 2) 検査技術科学専攻：臨嶺会

- 3) 理学療法学専攻・作業療法学専攻：州嶺会

3. 保健学科同窓会の運営について

- 1) 同窓会ホームページの運営
- 2) 同窓会だより第13号の発行
- 3) 同窓会総会および役員会の開催
 - ①平成27年度総会の開催
日 時：平成27年7月4日(土) 15:15～16:15
会 場：旭総合研究棟9階 講義室A/B
 - ②理事会の開催
日 時：平成28年6月15日(水)
会 場：保健学科中校舎 2階会議室
 - ③幹事会の開催
日 時：平成28年2月23日(火) 17:00～20:00
会 場：保健学科 ゼミ室I
日 時：平成28年5月17日(火) 17:00～
会 場：保健学科 ゼミ室1
- 4) 同窓会事務局の運営
- 5) 信州大学同窓会連合会との連携
 - ・7月11日(土)信州大学同窓会連合会役員会、
信州大学校友会理事会(旭会館3階)
(川上同窓会長)
 - ・9月9日(水)信州大学知の森基金後援会第2
回総会(川上同窓会長)
 - ・11月11日(水)同窓会連合会拠出金として
70,000円拠出
 - ・2月20日(土)同窓会連合会第22回役員会
(松本キャンパスCISMIT)(川上同窓会長)
- 6) 信州医学振興会支援

平成28年度事業計画

1. 在校生の教育支援及び保健学科の運営補助

- 1) 学生図書購入
- 2) 学術国際交流推進(オーストラリアのカーティン大学のプログラムと、シンガポールのシンガポール総合病院のプログラム、ネパールの保健医療活動プログラム)
- 3) 特別講演の開催
- 4) 実習指導者連絡協議会開催補助
- 5) 卒業式・学位記授与式
 - ・祝賀会補助
 - ・卒業記念品の贈呈(集合写真)
 - ・竹内松次郎賞記念楯(優秀学生表彰)
- 6) 入試広報活動補助
 - ・オープンキャンパス補助
 - ・各特別選抜試験および一般選抜試験補助
- 7) 学生課外活動支援
 - ・新入生合宿研修補助
 - ・学生への活動支援
- 8) 学習環境整備
 - ・大学院学生支援

- ・学部学生支援
看護学専攻

2. 保健学科同窓会分科会支援

- 1) 看護学専攻：アルプス会・桐の木会
- 2) 検査技術科学専攻：臨嶺会
- 3) 理学療法学専攻・作業療法学専攻：州嶺会

3. 保健学科同窓会の運営について

- 1) 同窓会ホームページの運営
- 2) 同窓会だより第14号の発行
- 3) 同窓会総会および役員会の開催
 - ①平成28年度総会の開催
日 時：平成28年6月26日(日) 15:15～16:15
会 場：旭総合研究棟9階 講義室A/B
 - ②理事会の開催
年1回(5～6月)
 - ③幹事会の開催
- 4) 同窓会事務局の運営
- 5) 信州大学同窓会連合会との連携
- 6) 信州医学振興会支援

同窓会役員

名誉会長：金井 誠（医学部保健学科）
会長：川上 由行（医学部保健学科）
副会長：山崎 美幸（松本市立病院）
理事：看護学専攻8名
中西美佐穂（医学部附属病院）
赤羽 公子（医学部附属病院）
茅野 郁子（医学部附属病院）
小林美恵子（医学部附属病院）
三輪百合子（長野県看護協会）
坂口けさみ（医学部保健学科）
浅沼 千晶（看護学専攻学生）
高瀬 里穂（看護学専攻学生）

検査技術科学専攻4名
依田 将宏（検査技術科学専攻学生）
赤羽 貴行（安曇野赤十字病院）
新井 慎平（医学部附属病院）
樋口由美子（医学部保健学科）
理学療法学専攻2名
石塚祐太郎（理学療法学専攻学生）
杉田 勇（諏訪中央病院）
作業療法学専攻2名
鈴木 朝香（作業療法学専攻学生）
井戸 芳和（医学部附属病院）

大学院（前期）1名
黒田 千佳（博士前期課程院生）
大学院（後期）1名
黒部 恭史（博士後期課程院生）
幹事：奥村 伸生（医学部保健学科）
下里 誠二（医学部保健学科）
柳澤 節子（医学部保健学科）
百瀬 公人（医学部保健学科）
横川 吉晴（医学部保健学科）
監事：中野美奈子（長野県看護協会）
務台 均（医学部保健学科）
事務局：中山 秀子

信州大学医学部保健学科同窓会会則

信州大学医学部保健学科同窓会会則

第1章 総則

- 第1条 本会は、信州大学医学部保健学科同窓会（以下「本会」という。）と称する。
- 第2条 本会は、事務局を松本市旭3丁目1番1号 信州大学医学部保健学科内に置く。
- 第3条 本会は、会員相互の親睦を図るとともに、母校との連携を保ち、その発展に寄与することを目的とする。
- 第4条 本会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行なう。
- 一 会員の親睦及び研修に必要な事項
 - 二 母校の発展に関する事項
 - 三 その他必要と認められる事項
- 第5条 本会は、必要に応じて各専攻等を単位とする分科会を置くことができる。
- 2 分科会の設置及び運営に関する事項は、理事会の承認を経て各分科会が定める。

第2章 会員

- 第6条 本会の会員は次のとおりとする。
- 一 正会員
- イ 信州大学医学部附属助産婦学校、信州大学医学部附属衛生検査技師学校、信州大学医学部附属臨床検査技師学校の卒業生
 - ロ 信州大学医療技術短期大学の卒業生
 - ハ 信州大学医学部保健学科（以下「本学科」という。）の在学生及び卒業生
- 二 信州大学大学院医学系研究科保健学専攻博士前期課程及び後期課程（以下「本大学院」という。）の在学生及び修了生
- 二 特別会員
- イ 本学科教員
 - ロ 本学科元教員
 - ハ 前項以外の者で理事会の承認を得た者
- 第7条 会員が死亡または会員たる資格を喪失したときは、退会したものとみなす。
- 第8条 会員が、本会の名誉を傷つけ、または本会の趣旨に反する行為をしたときは、総会において出席会員の4

分の3以上の議決により、これを除名することができる。

- 第9条 正会員は、細則に定める会費を入学時に納入するものとする。また、3年次編入生については編入時に4万円納入するものとする。ただし、退会または除名された会員が既に納入した会費その他の拠出金は返還しないものとする。

第3章 役員等

- 第10条 本会に次の役員を置く。
- 一 会長 1名
 - 二 副会長 1名
 - 三 理事 18名
（看護8名；検査4名；理学2名；作業2名；
大学院生博士前期課程1名、後期課程1名）
 - 四 幹事 若干名
 - 五 監事 2名
- 第11条 役員は、次の職務を行なう。
- 一 会長は、本会を代表し、会務を総括する。
 - 二 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときはその職務を代行する。
 - 三 理事は、会員の代表として本会の運営に当たる。
 - 四 幹事は、本会の実務に当たる。
 - 五 監事は、本会の会計を監査し、総会に報告する。
- 第12条 役員は、次により選出又は委嘱する。
- 一 会長は、総会において正会員の中から選出する。
 - 二 副会長は、会長が正会員の中から推薦し委嘱する。
 - 三 理事は、正会員の中から各専攻毎に選出し委嘱する。
 - 四 幹事は、会長が委嘱する。
 - 五 監事は、総会において正会員の中から選出する。
- 第13条 役員は、任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。
- 2 補欠による役員は、前任者の残任期間とする。
 - 3 役員は、任期が満了しても後任者が就任するまではその職務を行なうものとする。

第4章 名誉会長及び顧問

- 第14条 本会に名誉会長を置き、本学科の学科長を推戴する。
第15条 本会に顧問を置くことができる。顧問は、総会の議を経て会長が委嘱する。
2 顧問は、重要事項について会長の相談に応ずる。

第5章 会議

- 第16条 総会は、原則として毎年1回開催し、次の事項を審議決定する。
一 事業及び決算報告
二 事業計画及び予算
三 会則の制定及び改廃
四 役員を選出
五 顧問の推挙
六 その他の必要事項
2 会長は、総会を召集し、理事会の議を経て前項に定める事項を提案する。
第17条 会長は必要と認めるとき、臨時総会を開催することができる。
第18条 総会の議長は、出席会員の中から選出する。
第19条 総会は、日時、場所、付議すべき事項等を示して召集する。
第20条 総会に出席できない会員は、あらかじめ文書をもって意見を表示することができる。

- 第21条 総会の議事は出席会員の過半数で決し、可否同数のときは議長がこれを決する。
第22条 総会は、議事録を作成し、これを保存する。
第23条 理事会は、会長、副会長、理事及び幹事によって組織する。
第24条 理事会は、会長が必要と認めるとき、又は理事の5分の2以上の要求があったときに開催する。
第25条 理事会は、会長が召集し、議長となる。
第26条 理事会の議事は、出席者の過半数で決する。
第27条 理事会は必要に応じて委員会を置くことができる。

第6章 会計

- 第28条 本会の経理は、会費及び寄付金その他の収入をもって充てる。
第29条 本会の会計年度は、毎年4月1日から始まり翌年3月31日に終わる。

附 則

- この会則は、平成15年4月1日から施行する。
この会則は、平成16年4月1日から施行する。
この会則は、平成19年4月1日から施行する。
この会則は、平成21年4月1日から施行する。

信州大学医学部保健学科同窓会会計細則

- 同窓会費は6万円とし、本学本学科入学時に一括納入することを原則とする。また、3年次編入生及び修士大学院生については、編入時もしくは大学院入学時に4万円を納入するものとする。ただし、本人からの申し出があった場合は、同窓会理事会が分割払いを認めることができる。
- 本学科同窓会費6万円の使用内訳は、次のとおりとする。ただし、この枠を越えて使用する必要が生じたときは、同窓会理事会の承認を必要とする。
 - 在校生の教育支援及び医学部保健学科の運営に関すること。……………3万円
 - 保健学科同窓会分科会(各専攻単位)の運営に関すること。……………2万円
 - 医学部保健学科同窓会としての運営に関すること。……………1万円また、3年次編入生、博士前期課程及び博士後期課程の大学院生の同窓会費4万円の使用内訳は、次のとおりとする。ただし、この枠を越えて使用する必要が生じたときは、同窓会理事会の承認を必要とする。
 - 在校生の教育支援及び医学部保健学科の運営に関すること。……………1万5千円
 - 保健学科同窓会分科会(各専攻単位)の運営に関すること。……………2万円
 - 医学部保健学科同窓会としての運営に関すること。……………5千円保健学科同窓会会員が博士前期課程および博士後期課程に入学した場合は、(1)在学生の教育支援及び医学部保健学科の運営に関して1万5千円を納入すること。
- 金融機関への振込手数料は、会員の負担とする。
- 幹事代表者名で金融機関に同窓会の口座を設け、会計担当幹事が通帳・印鑑を管理する。
- 同窓会費の徴収は、入学時に行ない、徴収後は速やかに同窓会費支払者リストを作成する。
- 会計担当幹事は、会計年度終了後に速やかに決算報告書を作成し、監査を受ける。
- 本細則の改正は、同窓会総会で行なう。

附 則

- この細則は、平成15年4月1日から施行する。
この細則は、平成16年4月1日から施行する。
この細則は、平成19年4月1日から施行する。
この細則は、平成21年4月1日から施行する。

編・集・後・記

本号では新たに卒業生の声を掲載しました。保健学科1期生から5期生まで、卒業後の様々な経験を経て、社会で頑張っている様子が伺えます。保健学科開設とともに誕生した本同窓会はまだまだ若いですが、大学院生ともなると社会の中堅どころで活躍している方々もいらっしゃいます。今の医療・保健・福祉の現場で日々感じていることなど、今後、もっと多様な同窓会員の声を数多く紹介できるようにしたいと思います。(編集人Y)